



## NPO PTPL “ともいき” 便り No.84

平成 27 年 (2015 年) 9 月 23 日発行

### ■秋分 (しゅうぶん) 9 月 23 日から 10 月 7 日までの節気

金木犀の香りがほのかにただよい、彼岸花がびっくりするくらい激しい赤色で、すっ、すっとういています。まるで、花火のようです。節気は「秋分」に入ります。暑さもおさまり、実りの秋を迎えるころです。そして、9 月 27 日は仲秋の名月。晴れるといいですね。

9 月 23 日は、「先祖を敬い、亡くなった人を偲ぶ日」です。

(詳しくは <http://www.tomoiki.ptpl.or.jp/calendar/2015/>)

ずいぶん前になりますが、奈良のお寺に行ったことがあります。ちょうどお彼岸の頃でした。墓地を囲むように彼岸花がいつせいに咲いていて、この世の景色とは思えないくらいの迫力でした。お彼岸のころに咲くから彼岸花。花が落ちてから葉が出てくるので、花と葉を同時に見ることはできないという不思議な花です。根に毒があることから、イトキゴロシ、ドクバナ、シビレバナともいわれています。なんだか怖い呼び名です。でも一方ではこどもたちの草花遊びから、キツネノチョウチンとも呼ばれています。こちらは、可愛らしいですね。

シルバーウィーク、皆さんはどのように過ごされましたか。お天気にも恵まれて、出かけられた方も多いと思います。私は 21 日に、息子家族と夫と愛犬とで、群馬県の毛無し峠に行きました。「毛無し」というように、高い木々が生えていなくて殺伐とした感じのところでした。でもグライダーを飛ばしている初老の男性グループがいたり、自転車で急坂を登ってくる人たちがいたり。私たちは、上に到着するとさっそくお湯をわかして、カップラーメンを食べました。それから、オイルサーディンを沸騰させてにんにくのみじん切りとお醤油を少したらして食べました。フランスパンといっしょに食べるとおいしくて、汁も

パンに染み込ませて食べます。そして、コーヒーとビスケット。敷物に寝っ転がって、空を見上げていい気持ち、なのですが、2歳の元気な男の子に「いくよ!」と手を引っ張られてあちこち探検に歩かされました。帰りは大渋滞で家についたの0時30分。シルバーの夫婦にとってはくたくたでしたが、それでもリフレッシュできてハッピーでした。途中、白根山を通りました。噴火警戒レベルが2になったそうで、硫黄のにおいがきつかったです。日本のあちこちで火山が活発化していますが、地球は生きているのだなとしみじみ感じました。

そして、9月27日は十五夜です。有名な和歌があります。

「月々に月見る月は多けれど月見る月はこの月の月」詠み人知らず

この時期は、空気が1年で一番澄んでいるため空が綺麗に見えるのだそうです。中国から伝わってきたころは平安貴族たちが、月を愛でながら、宮廷で和歌を詠んだり、管弦を演奏したりして祝ったそうです。江戸時代になると、一般庶民にひろがって、ちょうど秋の収穫時期に重なるので、五穀豊穡を祝う行事になりました。お供えするのは、月見だんご、すすきや季節の花、収穫物。特に、里芋の収穫時期にあたるため、「芋名月」とも言われています。

里芋といえば、思い出すのは「きぬかつぎ」。里芋の小芋です。よく、父が買ってきてくれました。洗って、頭の部分を切って蒸して、塩をつけて食べました。芋は小さいし、ちょっと手間がかかります。でも美味しい。お店で小芋を見つけると、「うーん。ちょっと面倒だけど……」と思いながらも、買ってしまいます。父の味、懐かしい味です。

実りの秋です。秋分の節気、旬のおいしい食べ物をいっぱい食べたいです。新米も楽しみですね!

すとうあさえ (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 理事)

## ■ ともいき・ともうみ・ともさち雑感彼是

前号に続いて、今号でも本をご紹介します。

“日本「国体」の真実”(著者：馬淵睦夫・元駐ウクライナ大使・発行：(株)ビジネス社)を読みました。

馬淵氏は、「長く外国との関係に携わってきましたが、裏を返せば、絶えず日本とは何かを考えてきた 40 年間でした。現在から明治、江戸時代とずっと時代をさかのぼって考えていくと、究極的には古事記の時代に行き着きます。それは断絶しているのではなく、ずっと一貫して今に続いていることに気付きました。私が古事記を読んで感じたことを素直にこの本で書きました。古事記の精神は、今の日本の政治、経済、文化、この本の中では信仰と言っていますが、今の日本人の生活すべてに生きています。古事記は比喻、説話を通じて私たちが神性を宿した高貴な存在であることを日本人に教えているのではないかと思います。日本という国は終戦を機に、歴史の連続性を断ち切ってしまいました。日本の戦後教育で戦前の日本を肯定的に取り上げなかったのが一つの原因であると思っています。」と語っています。

日本人として、一読の価値ある書だと考え、推薦いたします。



勝田 祥三 (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 理事長)

#### ■事務局だより

##### ●関東圏の JR ローカル線に乗ってみました

シルバーウィーク期間中、かねてより一度、試みようと思っていた関東圏の JR ローカル線の旅に出かけました。

一日では回りきれないので、3 日間かけ、毎日、その日のメインになるローカル線を設定して実行しました。

初日は「相模線 (JR 茅ヶ崎～JR 橋本 (神奈川県))」がメインの旅です。

短い路線ですが車窓からは進行方向左側には山並みが見え、途中の門沢橋、社家あたりはローカル線に乗っているという実感がわいてきました。

2 日目は「八高線 (JR 八王子～高麗川 (ここで乗り換え)～JR 高崎)」がメインです。

この路線は期待通りの楽しい旅でした。高麗川を過ぎ、寄居に近づくにつれ、車窓からは山々が近くに迫り、川の水もきれいで穏やかに流れ、時の流れがゆったりと感じられます。

3日目はロングランとなりました。「両毛線（JR高崎～JR小山）」と「水戸線（JR小山～JR友部）」の旅です。

両毛線沿線は前橋、伊勢崎、桐生、足利、栃木など中堅都市が点在しておりイメージした車窓風景とは違いましたが、田んぼには稲が実り、田んぼの周りや小川には彼岸花が多く見られました。

水戸線沿線はこれまでのローカル線と比べ、無人駅が多く、のんびりと車窓からの風景が楽しめました。

この3日間を通して感じたことは、日ごろ、東京でコンクリートとガラスで覆われた空間で過ごしている者にとって、車窓からですが自然が身近に感じ、途中、時間待ちの間、ホームに降りると空気の違いを感じます。

たまには、時間を気にせず、のんびりとかういう旅もいいものだと思います。

これからは紅葉シーズン。紅葉時季に再度、訪れてみたいローカル線の旅でした。

#### ●会員募集のご案内

NPO活動を推進していくためには、多くの皆さま方のご支援・ご協力が不可欠です。

NPO PTPLでは、常時、個人会員と法人会員を募集しています。この便りをお読みの方で、ご本人またはお知り合いの方々にご案内いただければ幸いです。詳しくは下記まで、メールまたはお電話・FAXにてお尋ねください。

NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 事務局 担当：佐藤

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-2-18 虎ノ門興業ビル7階

電話：03-6205-7503 FAX：03-6205-7504

Email：info@plantatree.gr.jp